

製品名: IGF1R-ベータマウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM80596**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ELISA
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.03%アジ化ナトリウムを含むPBS。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	96kDa

抗原情報

遺伝子名	IGF1R-Beta
別名	IGF1R, IGF1R-Beta
遺伝子ID	3480.0
SwissProt ID	P08069
免疫原	大腸菌で発現した IGF1R-Beta の精製された組み換え断片。

背景

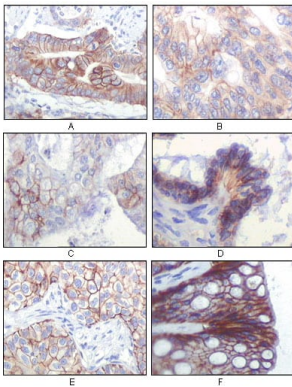
IGF1R（インスリン様成長因子1受容体）は膜貫通型受容体チロシンキナーゼであり、胎児および出生後組織の多くの細胞種、ならびに多くの細胞株に広く発現しています。受容体はリガンドである IGF-I および IGF-II に結合すると、自己リン酸化反応を起こします。

キナーゼドメイン内の3重チロシンクラスター (Tyr1131、Tyr1135、および Tyr1136) は、自己リン酸化反応の最も初期の主要部位です。これら3つのチロシン残基のリン酸化は、キナーゼの活性化に不可欠です。インスリン受容体 (IR) は、キナーゼドメインの活性化ループ内に同等の3重チロシンクラスター (Tyr1146、Tyr1150、および Tyr1151) を含む、構造と機能の両面で IGF1 受容体と高い類似性を有しています。インスリン受容体のチロシン自己リン酸化は、インスリン刺激に対する最も初期の細胞応答の一つです。自己リン酸化は、Tyr1146 と Tyr1150 または Tyr1151 のいずれかのリン酸化から始まります。キナーゼの完全な活性化には、3つのチロシンリン酸化が必要です。

研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路、Jak-STAT シグナル伝達経路、Hippo シグナル伝達経路

画像データ



パラフィン包埋ヒト胃腺癌 (A)、結腸腺癌 (B)、子宮内膜癌 (子宮) (C)、卵巣腺癌 (D)、肺扁平上皮癌 (E)、胃上皮粘膜 (F) の免疫組織化学分析。DAB 染色による IGF1R-Beta マウス mAb を使用して膜局在を示しています。